

アフリカに生きる～ベナンの文化と暮らし～

Noushile ma !!

お久しぶりです！平成27年度4次隊でベナンに派遣中の高木拓希です。

前回は野生動物の紹介でいっぱいでしたが、

第3回となる今回は、活動任地の**コドワリ村**(Kodowari)の人々の様子を中心にお届けします！



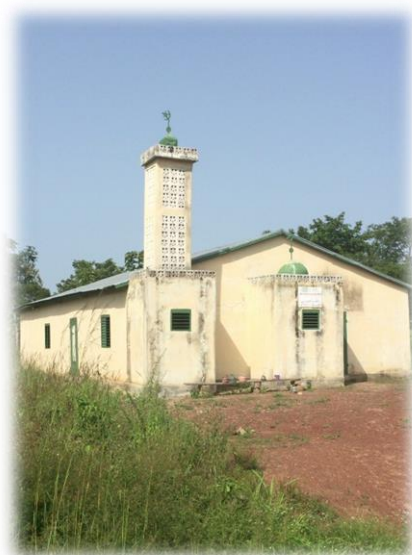
コドワリ村の入り口(写真左)とコドワリ村のメインストリートおよそ100M(写真右)

【コドワリの朝は早い……】

コドワリの住民はとても**早起き**！

それは皆が信仰するイスラームの最初のお祈りが朝5時にはじまるため。この時間になると村の各所にある**モスク**(礼拝所＝アニ語でジングリ)から**アザーン**(お祈りの時間を知らせる時の声)が聞こえてきます。お祈りは全て**アラビア語**。そのため、人々は子どもの頃から礼拝所で開かれるアラビア語講座で、**クルアーン**(イスラームの教典)の章節を理解し暗誦できるように勉強をしているそうです。

僕も、彼らの暮らしにより近づいていこうと、つい最近になって、この一日5回行われる礼拝に参加するようになりました。ただ、現地語であるフランス語とアニ語で精一杯な自分なので、アラビア語は当然分かりま



せん。子どもたちと並んで必死に大人たちの真似事をしていると、周囲の人たちが喜んで色々と教えてくれます。そして、皆口々に「神のご加護を(Gaja ga tanma)」と言い、それに対し「Amie」と返し一旦家路に着きます。日が昇りだいぶ明るくなる7時ごろには畑に出かける男性、学校に向かう子どもたち、家の掃除や洗濯物をする女性の姿で村が賑わいます。



日々の水汲み作業を行う元気な女性たち(写真右)と道路脇に置かれ販売される木炭の山(写真左)

【のんびり、ベナンの農村生活サイクル】

日本のお昼休みは12時から13時の1時間ですが、ベナンのお昼休みは**12時から15時**までたっぷり！その間、学校や市役所などの公的機関をはじめ、多くの人々が午前の労働で疲れた体をゆっくり休めるために各々家に帰って昼食を取ったり、近場の木陰で昼寝をしたりするのです。

随分のんびりしているなあ、と思われる方もいるでしょう。

ただ、このかんかんと日が照るアフリカの地において、太陽が最も高く昇る1時～2時の時間帯の暑さを避ける

ことは非常に合理的な判断なのです。それにベナンの、とりわけコドワリ村の日中は、日本の真夏の暑さとは大きく違って、木陰に入ると常にさらさらと風が吹いてとても気持ちが良いのです。そのためほとんどの人が外で休憩をしています。そして、16時のお祈りを終えた頃には、畑仕事から帰ってくる人がちらほらと見えはじめ、女性たちは晩御飯の準備をはじめます。

ちなみに、日本の家庭の御飯は、主食に汁物、おかずが数点といった感じでバラエティに富んだものですが、一方、ベナンの晩御飯はかなり**シンプル**。コドワリ村での最も標準的な夕飯の食卓は、**パット**をソースにつけて食べるものです。少し裕福な



木陰で一休み……

家庭では、**スパゲティ**を食べたり、おかずが多少ついたりすることもあるようですが、僕が知る限り、コドワリ村ではほとんど毎日をこのパットで生活しています。



←パットとソース、ワガシ付

パットは、米やトウモロコシを杵でお餅つきのように突き、適量の水と一緒に練ったもの。ベナンの国民食。

ソースは、家庭や地域により様々で、トマトや唐辛子、玉ねぎやオクラ、その他の葉物野菜を加えて、市販されるコンソメのキューブで風味をつけたもの。肉や魚でだしをとることもある。ねばねばとしている。

ワガシ(ソース内の四角い物体)は、大豆をよくすり潰し、油で揚げたもの。揚げ豆腐のような味と食感。個人的にベナン食で最も好きなもの。

【ベナン人の余暇:コドワリの夜】

19時と20時にあるお祈りを終わると、そのまま家に帰る人や親戚・友達の家に寄っていく人さまざま。多くは電灯がある家に集まって眠くなるまで話をして夜を過ごします。他にも、**テレビ**を持つ家庭に集まって、サッカーの観戦をしたり、**カセット**(日本で言うDVD)を持ち寄って映画鑑賞をしたり、更には深夜0時を過ぎても大音量で**陽気な音楽**を流し続ける家庭もあります。昨今は中古のブラウン管テレビやオーディオアンプ、携帯電話にDVD等がベナンに大量に入ってきていますから、これらがベナン人のもっぱらの暇つぶしなのです。子どもたちは学校の宿題を友達や兄弟とやり、それを終わると大人たちと一緒にテレビを見たり、子供同士で遊んだりします。ゲーム機や子どもたち専用の携帯電話等は一切ありませんから、**身近なもの**(例えば、木の棒やペットボトル、自転車のタイヤ等)でおもちゃにできそうなものを見つけてきます。子どもたちが疲れて寝始める21時頃、僕もまた、いつも晩御飯と一緒に食べている隣人宅から家に帰り、就寝するというのが毎日のサイクルです。

【コドワリの文化:挨拶】

コドワリ村の人々はみな**挨拶が大好き**！

おはようやこんにちはの言葉に始まり、「体の調子は？(Souru ni?)」「家族は元気？(Fammie ni?)」「仕事は順調？(Gi tima ni?)」「奥さん・旦那さん・彼女・彼氏は元気？(Gaka ni, Gouya ni, Copine ni?)」「学校・家はどうか？(Afala ni, Scouri ni?)」等々……具体的な様子を尋ねる質問が四つ、五つと続きます。そして、これに対して「元気だよ(Alafia)」と決まって返すことになっています。僕もよく、「奥さんは元気？」「子どもは元気？」と聞かれるのですが、「いないよ」と答えると決まって「なぜ？」と聞かれます。それに対して「わからない」と答えると相手が笑うという一連の流れをほとんど毎日繰り返しています。

余談ですが、コドワリ村の男性・女性は大体**15歳~18歳**で最初の**結婚**をし、3、4人の子どもがいます。イスラームの文化根強いこの村でもまた**一夫多妻**の形をとる人が多く、そのために家族の構成がとても複雑でしっかりメモでも取らないと理解できないほどです。ある時、村の人から「日本人は何歳に結婚して、何人妻を取るのか？」「子どもは何人つくるのか？」といったことを聞かれました。それに対し、「日本人は大体30歳頃に結婚して、子どもは平均で1人か2人。複数の女性と結婚はできない。」と答えると非常に驚いていました。

この挨拶の文化は奥が深く、ここに暮らして半年近く経ちますがまだ全て把握し切れていないこともあります。例えば、下の写真にあるお婆ちゃん(僕の家のそばにある共同井戸を管理している人で、いつも朝御飯に1キ近く

ある大豆やタピオカのドロリとした汁物(=**ブイユ、ココ**)をくれる等日頃お世話になっています)は、井戸にやってきた人や通りがかった人たちに挨拶をするのが大好きなのですが、相手が自分と同年代ぐらいのときに限って、とてつもなく長い挨拶をします。上の定番フレーズが終わると「エ」と一言発すると相手も「エ」と返します。そして、これをリズム良く、まるで餅つきの掛け声のように交互に「エ」「エ」「エ」「エ」と30秒ほど繰り返すのです。謎です。が、とても楽しげです。



写真左は共同井戸のお婆ちゃん和水汲みの女性、写真右はいつもお世話になっている隣人一家、普段はもう一人女の子とお父さんがいる

【コドワリの文化:お洒落なファッション】

普段は汚れても良いような服を着ているコドワリの人々、もちろん、この普段着からなかなか**独特なもの**(例:結婚式の引き出物らしき他所のカップルの顔と名前がでかでかと印刷された T シャツや、漢字で「中国」と書かれたシャツ等)が多く見ていて飽きないのですが、冠婚葬祭の際は誰もがベナンの**伝統衣装「ボンバ」**に身を包みとても鮮やかな光景になります。

お金を持っている女性や男性は、カツラやサングラス、帽子、靴等でさらに着飾ります。子どもたちも、大人と同じように上下同色セットのボンバを着たり、中にはタキシードや、西洋の御伽噺に出てきそうな綺麗なドレスを着たりする子たちもいます。

ベナンの人々は、生地をどんと一枚買って完全オーダーメイドで服を仕立てて貰う→



【次回について】

次回も引き続き「村の文化」をご紹介する内容でお届けします！

特に今回書ききれなかった結婚式の様子や、村の一大イベントであるイスラーム教のお祭りであるラマダーンやタバスキについて書きたいと思いますので、お楽しみに！！

更新日はおよそ2カ月後となります。

ご意見・ご質問等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

[mailaddress0323\(アットマーク\)gmail.com](mailto:mailaddress0323(アットマーク)gmail.com)